

農林水産大臣賞（被害防止部門（団体））

集落の住民全員が参画する体制を構築するとともに、行政や大学と連携したICTの活用や柵の見廻りの徹底、女性向けの研修会や「川島区立野生鳥獣被害防衛短期大学」と称する研修会等による人材育成など総合的な被害対策を実現。

かわしまく

川島区有害鳥獣対策委員会

いざわ しょうじ

主な取組

（委員長：飯澤 勝治）

たつのまち
長野県辰野町

- 昭和60年代に地区内7集落で設立された協議会を母体に、平成14年に「川島区有害鳥獣対策委員会」へ改組。
- 集落の有害鳥獣対策委員や鳥獣被害対策実施隊員、区総代などで構成される本委員会が対策の企画立案や調整を行う中で、県の野生鳥獣被害対策チームや大学の専門家、地元JAなど関係機関との連携を強化するとともに、対策の中核となる地域のリーダーを育成し、地域住民が主体的に取り組む体制を整備。
- 集落診断調査やサルの生息・出没調査を基に、電気柵の設置や鳥獣の餌となる放棄野菜の除去などを進めるとともに、GPSを活用したサルの行動把握や追い払い、ICTを用いた捕獲の実施、山際の緩衝帯の整備・維持管理、週1回の当番制による電気柵の見廻りなど様々な対策をきめ細かく徹底。
- また、猟友会と住民が一緒になった講習会や女性向けの研修会、住民を対象とした意識改革や技術向上を図る研修会「川島区立野生鳥獣被害防衛短期大学」の開催など様々な層をターゲットにした多様な人材育成活動を推進し、総合的な被害対策を実現。

【サルによる野菜類被害額 平成25年度:約312万円→平成29年度約50万円】